

各 位

会 社 名 サンリン株式会社
 代表者名 代表取締役社長 二木馨三
 (JASDAQ・コード7486)
 問合せ先 取締役管理本部経理部長 大槻清人
 電話0263-97-3030

平成 20 年 3 月期中間 (連結・個別) 業績予想との差異に関するお知らせ

平成20年3月期中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)の業績について、平成19年5月18日付当社「平成19年3月期 決算短信」にて発表いたしました中間(連結・個別)業績予想との差異が生じる見通しとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、通期業績予想に関しましては、原油市況の先行き等多分に不確定な要素を含むものの、寒冷地における燃料販売事業のメインとなる下期暖房需要期に向かい、収益の改善を図ることは十分可能であると思われることから、前回発表の予想に変更はありません。

1. 平成 20 年 3 月期中間連結業績予想との差異

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	15,300	280	320	200
今回修正 (B)	14,687	224	276	164
増減額 (B-A)	△ 612	△55	△43	△35
増 減 率 (%)	△ 4.0	△19.7	△13.5	△17.9
前期 (19 年 3 月期) 中間期実績	14,963	240	303	176

(2) 修正理由

当中間連結会計期間におきましても、石油類及びLPガスの仕入価格の高騰が継続いたしました。これにより販売価格が上昇したことによる消費マインドの落込みや、夏場の猛暑による燃料消費量の減少等により売上計画を下回るところとなりました。また、利益面では電気を含むエネルギー間競争の激化から仕入価格の上昇分を販売価格へ十分転嫁するに至らず、グループ全体として当初予想よりも利益見込が低下したことにより差異が発生いたしました。

SS店頭価格を含む石油類及びLPガスの販売価格の改定による収益確保やLPガスバルク供給化による流通コストの削減等継続的な改善に努めてまいりましたが、下期におきましてもより一層取組みを強化してまいります。

2. 平成 20 年 3 月期中間個別業績予想との差異

(1) 中間期 (平成 19 年 4 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位：百万円)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	13,600	270	380	230
今回修正 (B)	13,362	178	317	190
増減額 (B-A)	△ 237	△91	△62	△39
増 減 率 (%)	△ 1.7	△34.0	△16.5	△17.2
前期 (19 年 3 月期) 中間期実績	13,291	233	371	220

(2) 修正理由

連結と同様の理由によるものであります。

3. (ご参考)

(1) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）連結業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結予想	34,700	1,000	1,050	600
前期（19年3月期）通期実績	33,759	862	983	568

(2) 通期（平成19年4月1日～平成20年3月31日）個別業績予想

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
個別予想	31,200	950	1,000	550
前期（19年3月期）通期実績	30,344	731	929	510

(注) 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、原油市況の先行きや中東地域の地政学的要因などの様々な要因の変化により予想数値と異なる場合があります。

以 上